

### 徳島駅南の自転車専用レーン

# 危険になった不評の声

徳島駅南側の国道1号の歩道に、初めて整備された自転車専用レーンが、不評を買っている。自転車と歩行者の接触事故を起さないために整備したレーンだが、歩道中央に設けた鉄柵が通路幅を狭める上、周知不足から自転車が歩行者レーンを通行するなど、「かえって危険になった」との声も。国土交通省から億8000万円をかけて整備したものの、「無駄な公共事業」との指摘もある。

## 鉄柵にぶつかる／接触の恐れ

## 「無駄な事業」指摘も

新設された自転車専用レーンには、徳島駅前側から徳島駅前南側の難場町1丁目1番地まで、約1.2キロメートルの区間が整備された。また、徳島駅前南側の難場町1丁目1番地から、徳島駅前南側の元町1丁目1番地まで、約1.2キロメートルの区間が整備された。また、徳島駅前南側の元町1丁目1番地から、徳島駅前南側の元町1丁目1番地まで、約1.2キロメートルの区間が整備された。

周知が行き届かず自転車と歩行者が入り乱れて通行する自転車専用レーン。徳島駅前1丁目1番地から、徳島駅前南側の元町1丁目1番地まで、約1.2キロメートルの区間が整備された。



通路幅が狭くなったため、朝夕の通勤・通学時に、自転車の通行が滞り、歩行者との接触の恐れがある。徳島駅前南側の元町1丁目1番地から、徳島駅前南側の元町1丁目1番地まで、約1.2キロメートルの区間が整備された。

になることもある。

自転車専用レーンが整備された区間の歩道は、女性会館(約800平方メートル)表示板が目に入らず、自転車が歩行者レーンに気付かなかった。鉄柵におつきりするたびに、「ヒヤッ」という音がする。歩道沿いで洋服店を営む女性(64)は「圧迫感があり、余計に危なくなった印象。必要のない公共事業の典型ではないか」と指摘する。徳島河川国道事務所は

「この区間で04、07年度に自転車と歩行者が関係する事故の届け出はなかった。しかし交通調査の際には、接触事故の可能性のある自転車と歩行者の交錯が多々みられた」という。

同事務所交通対策課の石川安一課長は「自転車には不便をかけるが、交通弱者である歩行者の安全を優先させた。危険性を指摘する意見があれば聞きたい」と話している。

国土交通省は、08年1月、徳島、佐吉町駅前側を含む全国98カ所を、自転車専用レーン整備のモデル地区に指定。四国は各県2カ所ずつ8カ所が選ばれた。佐吉町駅前側の国道沿いの歩道2900平方メートル、県が事業費3000万円、09年度内の完成を目指している。色分けはするが、鉄柵を設けない予定。